

# いってきました! 講演会・公開講座



パートナーシップさいたまが主催した講演会、公開講座を「鐘の音」編集員が、お伝えします。

パートナーシップさいたまが主催する講座・講演会の情報は、「市報さいたま」でお知らせしています。

## 男女共同参画週間記念講演会「私たちが創る男女共同参画社会」

～働く、生きる、育てる、つながる～ お話 評論家 樋口恵子さん  
 ●日 時/平成17年7月2日(土) 14:00～16:00 ●会 場/生涯学習総合センター 多目的ホール



私たちが創る男女共同参画社会～働く、生きる、つながる～  
 講師: 樋口恵子さん

男女共同参画週間(6月23日～29日)を記念して開催。樋口さんはこれまでの10年間を、地方分権が進められたこと、NPOやDV、ボランティア、介護等に関する法律もでき、互いの「パートナーシップ形成」がキーワードになったと話された。  
 また男女共同参画推進を第九の合唱にたとえ、自分自身の磨き上げた個性を出し合い、音楽として完成させていく過程と、男女が新しい社会を創り上げていくのは同じであると、分かりやすく話していただきました。

### 「血を通わせるのは、ほんと、これから」

講師は私と同年代、その樋口さんは冒頭「パートナーシップ」という言葉が大好きとおっしゃる。特に男性の自殺が増えた最近の世相にも触れながら、それでも「変わっていく社会の魅力、それに参画することの生き甲斐」をソフトな語り口で強調されました。また「(新しい法律や制度を)血の通ったものにしていくのは、ほんと、これからよ」と心に響く爽やかな言葉。そして講演の随所で、古い殻を小気味よく砕いてくれました。

講師の願いと聴衆の気持ちがつながった2時間、「第九の混声合唱こそ男女共同参画の姿です!」そんな樋口さんの言葉が印象的でした。  
 (長谷川 寛)

### 講師紹介



ひぐち けいこ (評論家)

1932年生まれ  
 1956年東京大学文学部卒・東京大学新聞研究所本科終了その後時事通信社を経て評論活動に入る。2003年3月まで、東京家政大学教授・「女性と仕事の未来館」初代館長。現在、評論家・「高齢社会をよくする女性の会」代表・東京家政大学名誉教授。著書に「ワガママなバアサンになって楽しく生きる」(大和書房)など多数。

### 「男女平等は世界のルールブック」

今年4月から10年余のブランクを経て再就職した、2050年時点での後期高齢者、こと私・渡部は、家族からの無言の圧力を押し返し、休日の講演会に参加してきた。

樋口さんによれば、2050年には4人に1人が高齢女性となり、それだけバアサンの影響力が強まるという。それを聞いて、まぶしい未来(一)に笑みを浮かべた私だった。でもちょっと待って。この想定は、男女平均寿命に今と同じ7歳程度の差があることを前提にしたものだ。そして、その差に大きく影響しているのは、年間2万人を超える男性の自殺なのだ。

この悲しい事実の前で私は、男たという理由だけで経済を支えようとするのもつやめてと言いたい。ならばどうすべきか。樋口さんは言う、「世界に伍して平和に生きてゆくためには、男女平等という世界のルールブックを守るべきです」。  
 (渡部 祐子)

## さいたま市女性カレッジ公開講座「私たちはどうい社会に生きているか」

～男女平等の生きやすい暮らしへ～ お話 群馬バース大学教授 内藤和美さん  
 ●日 時/平成17年6月25日(土) 14:00～16:00 ●会 場/桜木公民館 第1,2講座室



私たちはどうい社会に生きているか

開講中の「さいたま市女性カレッジ」の第2回を公開講座として開催。  
 女だから、男だからという理由だけで、したいことができなかつたり、仕事や役割がかたよっているとしたら…。喜びも責任も分かち合う生きやすい社会への展望を内藤和美さんにお話しいただきました。

### 「性別秩序よ サヨウナラ!」

わかりやすく、面白くて、アツという間に2時間が過ぎていった。第一印象は「こんなによい内容の講座を働き盛りの男性陣も参加すればいいのに」。

我が国に存在し続けてきた「性別秩序」。  
 太平洋戦争以前は「家長長制」をベースにした国家統治の仕組みとして、戦後のそれは経済復興と高度成長のための効果的な仕組みとして「男は仕事」「女は家事」そして「男は基幹労働」「女は周辺労働」という二つの性別分業のサイクルを回すという構造的な存在理由をもつていた。今、少子高齢化、成熟経済社会を迎え、これまでの性別分業の存在基盤が崩れ、個人がその個性と能力を十分に発揮することのできる「適材適所の性に対してフェアな社会の仕組み創りが求められている」。

当たり前の話だが「男らしさ」「女らしさ」は国や他の誰かが押し付けるものでなく、一人ひとりが自身自身で決めるものと講師は語っている。  
 (野田 義章)

### 講師紹介



ないとう かすみ (群馬バース大学教授)

1957年生まれ  
 1980年お茶の水女子大学理学部卒・東京大学大学院医学系研究科修士課程修了(保健学博士)専攻はジェンダー研究(特に政策過程研究)また、独立行政法人国立女性教育会館等の公的委員等を務める。著書に「女性学を学ぶ」(三一書房)など多数。



## さいたま市男性短期カレッジ「生き方再考・私生活の充実へ!」を開催します

### カリキュラム

回	日程	内容	講師
1	11/5	ボクの見方、アナタの見方 -オトコの自己表現トレーニング	パートナーシップさいたま事業コーディネーター 下村 美恵子
2	11/12	<公開講座> それをドメスティック・バイオレンスという -夫・恋人からの女性への暴力	お茶の水女子大学教授 戒能 民江さん
3	11/19	男も変わり目、変わりどき -男らしさから自分らしさへ	千葉大学講師 関口 久志さん
4	11/26	男性解体新書 -性と生をめぐる神話と思い込み	千葉大学講師 関口 久志さん
5	12/3	オトコだって悩んでる -髪や、育毛や、髪ベタ...そして	昭和大学講師 須長 史生さん
6	12/10	良薬口に苦し -飲む?飲まない?男女共同参画というクスリ	パートナーシップさいたま事業コーディネーター 下村 美恵子

男は家族を養ってこそ一人前、泣き言を言わない、なんといっても仕事々々...などの覚悟を背負っていませんか。それは当たり前と思っているアナタ、そうでもない生き方があることをさいたま市男性短期カレッジで発見してみませんか。

- 日 時 11月5日～12月10日までの毎週土曜日 14:00～16:00(11月5日・12月10日は16:30まで)
- 会 場 パートナーシップさいたま 会議室3
- 定 員 20名
- 対 象 さいたま市在住・在勤・在学の男性で、全回出席可能な方
- 費 用 お茶代300円(最終回はティー・ブレイク)
- 保 育 2歳～学齢前までのお子さん 6名(保険料180円)
- 申 込 電話かFAXでパートナーシップさいたままで  
 (電話642-8107 FAX643-5801)申込多数の場合は抽選  
 名前・年齢・郵便番号・住所・電話番号・職業と保育希望の有無をお知らせください。
- 締め切り 10月20日(受講の可否は10月26日までにお知らせします。)